

<安保法制に反対する与党議員よ出でよ！！>

あの鉄腕アトムの声優、清水マリさんにインタビュー

戦後70年を迎える8月の「うらわ宿」には、あの鉄腕アトムの声で全国に知られている、声優で演劇家の清水マリさん（浦和区前地在住）に登場していただきました。先月の7月10日に「鉄腕アトムと共に生きて」（さきたま出版会発行）という自叙伝を出版したばかりです。お父様が俳優の故清水元さん、お兄さんが元NHKプロデューサーの清水満さん、御子息も社会派演劇でご活躍の劇団「花鳥風月」主宰者山内大典さん、ご主人は3年前他界されましたが桐朋大学演劇科の教授という演劇一家です。そうした清水マリさんに、まずは終戦時の記憶、安保法制などについてお話いただき、そして、鉄腕アトムと手塚先生について、現在も活発にご指導されている朗読の会についてお話いただきました。（2015年7月20日）

<浦和西高はとて素晴らしい学校でした>

Q：マリさんが浦和西高生の時は河合武先生はおられましたか？

A. はい、2年の時新任で来られましたね。西高で一番最初の演劇の先生でした。大学を卒業してすぐに来られたので、先生というよりお兄さんみたいでしたね。それで育ちのいい坊ちゃんみたいでしたから、「あー、また可愛い(河合)坊やがわけのわからないことを言っている・・・」などと言ってからかってました。

Q：たしか「学生に与う」で有名な社会思想家、河合栄治郎さんのお子さんでしたね。そうすると演劇部の顧問をされたのは西高が初めてということですね。マリさんは軽井沢にも行かれたか？

A. はい、演劇部で合宿しましたね。西高はとて素晴らしい学校でした。みな本当に仲がよくて、今でも同級会をやっています。さすがに山登りや遠出はだんだんできなくなりましたが、最近は何かうまいものを食べましょうというのが多いです。

<父は一貫して戦争反対でした>

Q. 清水マリさんについては、自叙伝や以前野々垣さんがインタビューした記事もありますので、本日は、終戦時のころのお話や、現在すすめられている戦争法案についての感想などを中心にお伺いさせていただきます。

いきなりで恐縮ですが、先生の自叙伝の中に、お父様の事が書かれていて、戦争に反対していて、非国民と言われるのではないかと心配していた、と書かれていますが、戦時中や終戦時のお話をお願いします。

A. 父は最初から戦争反対でした。胸に子どもころの大きなやけどがあって徴兵は免れたようですが築地小劇場などで演劇をやっていたものですから慰問隊に組み込まれて全国を回っていましたので、殆ど家にはいません。帰ってくるとこの戦争はおかしいとか、国の在り方がおかしいとか常々言ってました。しかも大きい声で言うんです。そういう人たちとの繋がりがどこかにあったので、はないかと思えます。私にはまだ父の言っていることがよくわかりませんでした。兄も私も軍国少年少女ですから、子ども心に反戦思想の父は非国民で危ないと思っていたものです。広島、長崎に原爆が投下さ

れ、父がこれで戦争は終わると言っていたのを覚えています。母は戦争について父ほどはっきりはしてなかったと思いますが、とにかく食糧がなくて困ると、戦争を怨んでいたのを覚えています。父がたまに帰ってきて、カンユ、カンパン、わかめのお菓子など貯めておいてもち帰ってくると私たちは喜んで食べました。家族思いだったのですね。

Q. 浦和でも空襲があったと聞いてますがそのご記憶は。

はい、今の県庁あたりだと思います。私の住んでいたところは大丈夫でした。ただ、県庁が焼けて、隣が刑務所だったので、一時受刑者を逃がしたというのでなんとなく怖かったのを覚えています。その後おさまったという事です。

住んでいるところは低地で、1メートル位掘ると水がでるものですから、防空壕は下にスノコのようなものがおいてあるひどいものでした。東京大空襲の時は空が異様に赤くなっていたのを覚えています。

<60年安保闘争は青春そのものでした>。

Q. そして演劇人を目指していくことになるのですがマリ先生ご自身の反戦活動や政治との関わりはどのようなものでしょうか。

A. 父の影響で自然に演劇をやるようになりましたが、反戦意識も早いうちから父の影響で身につけていたと思います。浦和西高ですと演劇部をやっていてその後俳優座養成所に入り、その後劇団新人会に所属しました。当時の新劇は殆ど左翼ですから、政治を批判するような演劇が多く、田中千禾夫先生の「マリアの首」などをやりました。60年安保の時は、劇団から真っ直ぐ国会デモに行くという日々を過ごしました。竹竿をもって銀座でフランスデモも行きました。今も新劇人会議が頑張ってますが、当時も新劇人会議は活発で、デモには身分がばれないように、ハンカチ、ちり紙、小銭入れ以外は持ってこないよという指令も出ました。右翼が、釘つきの角材で襲いかかってきました。俳優にとって顔を傷つけられるのは大変なことですから恐ろしいことでした。6月15日、樺美智子さんが亡くなった時は、泣き続けました。安倍さんのお爺さんの岸さんが、デモを見て失禁したという噂が流れましたが、バカバカしい話ですが皆で大笑いした記憶があります。もちろん真偽は定かではありませんが。

<共産党を応援しています>

Q. 共産党との関わりはいつごろから、どんなきっかけだったのでしょうか。

A. そうですね。だいぶ昔の事です。たぶん富樫さんや吉野さんのころだったと思います。いろんなことでお付き合いがはじまってお手伝いをする事になりました。選挙ではいつも応援して注目しています。

<明智はまだか！！>

Q. 現在の安保法制の動きをどうお考えですか。

A. 自民党には安倍さんの首に鈴をつける人がいないのかと思いますね。数では押し切られてしまいますから、内部で反乱する人がいないと勝てません。自民党には300人も議員がいて、誰も異を唱える人がいないのかと不思議でしょうがありません。毎日明智光秀はいないのか、と皆に言っています。安保法制は歴史的イベントになると思うんですね。こういう時何か起きると思うのね。本能寺の変のような。とにかく一人一人の議員

さんに聞いてみたいですね。あなたがたは、それでいいんですか、どうして政治家になったのですかと。ただ、衆院で強行採決した時にさすがに「バンザイ」という光景はなかったですね。彼らにもいくら後ろめたい気持ちがあるのではないかと思うんですけど。

＜手塚先生からは地球人として生きていく考え方を学びました＞

Q. 鉄腕アトム、手塚治虫先生と共に歩まれたと思いますが、もっともお感じになられていることはどんなことでしょうか。

A. 手塚先生の「鉄腕アトム」によって日本のロボット科学は世界でもっとも進んでいると思います。すでに殆どのサービスをロボットが対応するホテルまであるようです。またロボットだけでなく、高速道路の絵や、ビル一枚ガラスの景観など、手塚先生の絵が、道路建設やビル建築などに大きな影響を与えていると言われています。そして何より、人類に対しておろかな戦争やさまざまな自然災害に警鐘を鳴らしていることです。「ガラスの地球を救え」という手塚先生の本がありますが、すべての地球人にいいたいですね。環境破壊がすすんで、人間だけでなく生物がすめない地球にさせないためにも、大きな世界観が必要だと思います。私が手塚先生に影響を受けたところはまさにそういうところですね。どの国も自分の軍隊をもって争いに備えるということではなく、地球人として、おろかな戦争はやめて、この美しい地球を守るためにどうしていくかという考え方に切り替えて行って欲しいと思います。

小説ですと絵にするにはワンクッション想像力が必要ですが、漫画やアニメですと直接人に訴えることができます。そこが手塚さんの素晴らしいところだと思いますね。

＜核問題の解決にアトム君のようにはならないだろうが、夢は持ちたい＞

Q. アトム君にしてもらいたいことは？

A. 鉄腕アトムの中に「ゲルニカ」という小編があるのですが、巨大カタツムリのおばけが出てきます。自衛隊が何をやっても退治できないでいると、アトムが塩のようなものを考えだしてそれをまいて退治してしまうんですね。今の福島原発の数多くの放射性廃棄物の山も何とかならないかしらと思うのですが、誰かこうした塩のようなものを発明してくれるといいのにと常々思います。アトム君でも多分無理でしょうけど、そういう夢は持っていたいですね。

＜小沢さんの「浦和むかしむかしの会」にも反戦の思想は生きていました＞

Q. 5月に小沢重雄さんの追悼公演をおやりになりましたが、小沢さんとはどういうおつきあいだったのですか。

A. 鉄腕アトムの声を35年やって次はどうしようかと考えていた時、「浦和むかしむかしの会」の創設者で、埼玉県の民話の掘り起こしや朗読劇をやっていた小沢さんに誘われました。小澤さんと二人での朗読は私にとっては新たな世界でしたので大変感謝しています。その小澤さんが2008年3月になくられたのですが、今年ようやく埼玉会館で8年かけて追悼公演を開くことができました。小澤さんも反戦思想の持ち主で、民話などを通じて随分そうした話をしました。直接戦っている兵隊さんの話ではなく、何も知らない子どもたちが戦争によって被害者になることが許せないという内容のお話が多かったですね。

Q. 浦和の民話はどのようなものがあるのですか？

A. 浦和には民話が100以上はあると思います。大きく分けると、見沼地域の芝川や大久保地域の荒川でのいずれも荷物の上げ下ろしの流通ルートでの話し、そして真ん中の中山道の旅人の話です。面白いことに荒川は明るい話しが多く、見沼のほうは悲しい話しが多いですね。中山道は個性的な話しが多いという具合でこのあたりは民話の宝庫だと思います。

<劇団むかごでは、演劇を基礎からじっくりと教えたかった>

Q. 劇団むかごをご兄妹でおやりになられましたがいかがでしたか。

A. 浦和駅前に貸しスペースがあったものですから、何かやっていただけませんかと言われて、小さいお子さんに演劇をじっくり教えていきたいと思って始めました。こどもの劇団ですが、これも反戦をテーマにした本格的な芝居もやりました。はじめはたくさんいたのですが、そのうちテレビにすぐ出たいというニーズに合わせたプロダクションがどんどんできて、演劇をじっくりというのが難しくなってきました。そして受験勉強などで生徒さんがだんだんいなくなってしまうしました。でも今でもその時のお母さんたちと楽しく同窓会などを行っていますし、そこで通われた生徒さんの何人かはお芝居をやっている方もいますのでやってよかったと思っています。

<各地の朗読会は教えるというよりは一緒にやるようにしています>

Q. 朗読の会はいかがですか。

A. 現在、浦和では5つの公民館で朗読の会に関わっています。やはり地元の浦和で発信したいという思いで活動しています。浦和以外では岩槻で小沢さんが指導されていた「みのりの会」を私が引き継いで見えています。学校の先生がたの朗読研究の会で毎年1回、発表会を行っています。教科書にのっている話し等も取り上げています。皆さん本当に熱心です。

Q. 朗読の時の声はアトムの声と変わるのでしょうか。

A. もともと私は声が高く金属音のようでしたから、それがアトムは男の子のような声でという要求の手塚先生にもマッチしたのだと思います。長らくアトムの声を出し続けているとつい普通の会話もそのようになってしまい、「アトムの声で喋るな！」などと冗談を言われます。

もちろん朗読の会での語りの時はその役に合わせて別の声になります。おばあさん役になったり悪者になったりしますので色々な声を出さないとイケません。それがまた楽しくもあります。

Q. 声をいつまでも維持されているのは何か秘訣があるのでしょうか？

A. 昔はマイクなどありませんから大きな声で、劇場の奥までとどく訓練をしました。今は朗読の会で皆さんと発声練習をしていることが維持している秘訣ですね。多い時は月20回位、発声練習をしますからそれは大変声の維持に役立ちます。「ういろ売り」という7分位かかる発声の語りがあるのですが、多い時で一日3回もやる時があります。これは結構大変です。発声は複式呼吸が基本ですから健康にもいいのです。ただ、それで痩せるのにも役立つということはないと思いますが（笑）。

Q. 最後にこれからおやりになりたいことをお願いします。

A. そうですね。今年は小沢重雄さんの追悼公演をやりましたし、私なりに手塚先生へのレクイエムもこめて、自叙伝をつくりました。いまはすべて使い果たした感じですが、生きている限り何かやらないといけないと思っています。

本日はどうもありがとうございました。次回は是非私たちのイベントで講演や朗読をお願いしたいと思います。

編集部よりひとこと：現在も多方面で活躍する清水マリさん。終始あのアトムの声で語るテンポは早くドラマ風なのです。流石長年演劇人としてのキャリアとと思いました。浦和を愛し、自然体であることが印象的でした。ご本人に代わり下記PRさせていただきます。

◆清水マリさんの自伝「鉄腕アトムと共に生きて」は須原屋等書店等で絶賛発売中です。
(1,800円+税)

◆劇団「花鳥風月」本年度公演「零のナンバー」は、マイナンバー制度の危険な問題点に鋭くメスをいれたミステリアスな演劇で、池袋GEEK IBAで、8月20日～23日好評里に終了しました。次回公演は2016年7月、日暮里のd-倉庫で「海人の約束」ーうみんちゅのやくそくーと決定しました。詳しくは、劇団「花鳥風月」のホームページを見て下さい。



インタビューに答える清水マリさん